

①匹見町でツキノワグマ学習会を行いました！

5月10日(土)と11日(日)に益田市匹見町の匹見タウンホール、匹見下公民館、道川公民館にて「匹見町ツキノワグマ学習会～クマに強い地域づくり～」を開催し、地域住民合わせて23名が参加しました。

この学習会は昨年の匹見町においてクマによる家屋侵入被害が多発したことを受けて、地域で力を合わせて対策を行っていくための前段階として開催されており、クマの生態や個人でできる被害対策に加え、地域としてまとまって被害対策をしていく手法等についても幅広く解説する内容となっています。説明後には、クマの適正な管理や被害対策等について、多くの質問が寄せられ、関心の高さが伺えました。今後は地域単位でのワークショップの実施を計画しており、人口が少なくなっていく中で地域でどのような体制を組み、対策していくのかを話し合う予定としています。



5/10 匹見上公民館 学習会



5/10 澄川公民館 学習会

①津和野高校で林業学習を行いました！

6月10日(火)に津和野高校で、1年生5名に対し、林業学習を実施しました。津和野高校では、1年生の総合的な探究の時間に「ブリコラージュゼミ」という授業を設けており、この授業で林業学習を実施しました。

授業ではしまねの林業や森林に関する講義と、伐採現場の見学や高性能林業機械操作体験などを予定していましたが、当日はあいにくの雨だったため、現場見学に代え、チェーンソーのVR機械を使った操作体験や樹木学習を行いました。

チェーンソーVRでは、生徒同士でも声を掛け合いながら賑やかに楽しく体験してもらいました。

樹木学習では、教室内で事前に準備した樹木の葉を用いて解説した後、学校内に植えられている木を実際に見ながらどういう樹木か学んでいただきました。

授業後のアンケートでは「VRがすごいと思ったし、体験して楽しかった」「高校の周りの植えられている木の話が面白かった」という感想がありました。

今回の林業学習を通して、さらに林業に関して興味関心をもっていただけたと思います。



チェーンソーVR体験



樹木学習

①益田翔陽高校で林業学習を行いました！

令和7年7月4日(金)に益田翔陽高校総合学科3年生15名に対して、林業学習を実施しました。

当日はまず、学校でしまねの林業、木材の利用についての講義を行ったあと、安野産業株式会社の製材工場へ移動し工場見学を行いました。

学校での講義では、益田事務所が講師をつとめ、森林を育てる作業や木を伐る作業にはどういったものがあるか、また、住宅を中心に木材の利用について学習してもらいました。

また、製材工場見学では安野産業(株)工場内の製材機械や製材工程を見学し、加工された木材製品の説明を受けました。

参加した生徒の中には、これまで林業や木材産業を知らなかった生徒も多く、本授業がきっかけで林業や木材産業、木材の利用について興味をもっていただければと思います。



講座の様子



製材工場の見学

②高津川森林組合と高津川漁業協同組合が作業道開設に関する覚書を締結しました！

令和7年7月10日(木)、高津川森林組合の木材生産や森林整備に必要な作業道の開設と高津川漁業協同組合の漁業資源保護や水質保全という、双方の重要な業務について情報共有による相互理解を深めるため両組合長による覚書の調印が執り行われました。

高津川は、令和6年度の国土交通省の調査で2年連続9度目の清流日本一となった河川であり、本調印は流域の自然環境と林業木材産業の持続可能性を高める重要な一歩であるとともに、地域住民や関係団体が一体となって環境保全に取り組むモデルケースになるものと考えます。

県としても、豊かな自然環境を次世代へ引き継ぐため、環境に配慮した「安全で壊れにくい作業道」開設を推進・支援していききたいと思えます。



調印の様子



調印の様子

①益田翔陽高校が、農林大学校林業科を訪問し、林業学習をしました！

令和7年8月21日(木)に、益田翔陽高校2年生19名が島根県立農林大学校林業科(飯南町)を訪問し、同校の見学と林業学習を行いました。

当日参加した生徒は4つの班に分かれて、①VRシミュレーター(ハーベスタ、チェーンソー)、②ドローン、③林業機械(ミニグラップル)、④チェーンソーの4つの操作体験をした後、農林大学校の紹介や説明を受けました。

暑い中でしたが、参加した生徒は楽し気に体験をしており、「VRが楽しかった」「林業機械の操作が一番難しかった」など感想をいただきました。

参加した生徒は昨年に「林業カフェ※」を受けており、10月には益田管内の林業事業体の伐採現場や、林道や治山工事の現場を見学し、林業について学ぶ予定です。

こうした学習を通し、将来林業に関係する仕事への就職につながることを期待しています。

※林業カフェ...高校生が農大生や林業従事者の方と意見交換を行う学習



VRハーベスタ操作体験



ミニグラップルの操作体験

①匹見小学校でツキノワグマ学習会を行いました！

9月2日(火)に匹見小学校でツキノワグマの学習会を行いました。1～6年生の児童20人が真剣に話を聞いてくれました。最初に「クマって怖いと思う？かわいいと思う？」と質問すると、それぞれで半分ずつくらいの児童の手が挙がりました。その後、クマが柿の木に登る動画や、クリの実を上手に食べる動画を見ると、「かわいい」という声が聞かれました。

匹見町は益田市の中でもクマが身近に生活している地域であり、生徒の中にもクマを見たことがある子がいました。山の中で生きるクマを正しく恐れ、正しく対策していくための方法をわかりやすくお話ししました。

最後にはみんなでクマに突然出会ってしまったときの対処法として、急所である顔とお腹を隠す形で伏せ、首を手で守る防御姿勢を一緒にやってもらい、いざという時の身の守り方を学んでもらいました。



授業の様子



防御姿勢を取る生徒たち

②益田翔陽高校が西部高等技術校で木工体験をしました！

9月5日(金)に、益田翔陽高校総合学科3年生15名が島根県立西部高等技術校にて、林業学習の一環として木工体験を行いました。

当日参加した生徒は、西部高等技術校の教員から工具の使用方法や注意事項について説明を受けた後、各自で事前に準備したデザイン図のとおりジグソーや糸鋸盤を使用し板を切断し、やすりで仕上げを行い、木製ディスプレイスタンドを作成しました。

当日参加した生徒からは、「普段できない体験ができて楽しい」「木はいいなと思った」という感想がありました。

この生徒達は7月に、林業や木材利用に関する講義や製材工場の見学も行っています。

こうした林業学習を通して、今後も林業や木材に関して興味関心をもってもらえたらと思います。



道具の説明を受ける様子



木工体験の様子

③益田翔陽高校総合学科の1年生が林業について学習をしました！

9月19日(金)に、益田翔陽高校総合学科1年生40名に対し林業学習を実施しました。当日は、林業事業体や森林林業に関わるNPO法人に所属する方に講師を依頼し、益田翔陽高校に招きました。

林業事業体の方からは、林業という仕事の説明や同校の卒業生でもある若手社員がその会社を選んだ理由など紹介いただき、NPO法人の方からはこれまで歩んできた人生から、今の森林や林業に関わる職業を選んだ話などしていただきました。

教室での座学の後には、講師がチェーンソーで丸太切りをするのを見た後、希望生徒が丸太切りにチャレンジしました。

講座の最後に、生徒全員がチェーンソーVRを使用し、立木の伐倒を体験しました。

参加した生徒からは、「林業のことを知ることができてよかった」「チェーンソーが楽しかった」などの感想がありました。

今回の講座で、林業への印象が変わった生徒もいたため、林業学習を通して将来林業に関係する仕事への就職につながることを期待しています。



講義の様子



チェーンソー体験



チェーンソーVR体験

① 益田翔陽高校が林業カフェを行いました！

10月15日に益田翔陽高校で、生物環境工学科1年生24人に林業カフェを行いました。林業カフェとは、高校生が農大生や林業従事者の方と意見交換を行ったり、チェーンソー体験を行う講座で、気軽に林業の話や体験ができる機会として実施しています。

当日は伸和産業株式会社と株式会社美都森林から2名ずつ計4名の講師と、農林大学校林業科の生徒2名に参加いただき開催しました。

意見交換会では、少人数のグループに分かれて林業を職業として選んだ理由や農林大学校での生活や実習について話を聞きました。

チェーンソー体験では生徒全員が丸太切りを体験し、参加した生徒からは、「初めて使った怖かったけど楽しかった」「貴重な体験になった」などの感想がありました。

林業就業を目指す生徒さんが増えるよう、今回林業カフェに加えて、今後も林業学習を続けて取り組んでいきます。



カフェの様子



チェーンソー体験

② 流域材を使用した豊川公民館の完成見学会を開催しました。

10月17日に高津川流域林業活性化センターが主催し、益田市豊川公民館の完成見学会を開催しました。

新しい豊川公民館は旧公民館横に建設されたもので、豊川公民館・放課後児童クラブが入る木造平屋建てで、渡り廊下2棟、倉庫も併せて高津川流域材を中心におよそ60m³の木材を使用されています。

今回の完成見学会では、製材工場や行政職員など18名が参加し、設計を行った(有)万設計に講師をしていただき、工事の概要や設計のコンセプトの説明をしていただきました。

参加者には豊川公民館に製材品を供給した製材工場の方もあり、出荷した材がどう使われているか実際に見ていただく良い機会になりました。



設計者からの説明



内装の見学の様子

③益田翔陽高校2年生が林業の現場を見学しました！

10月30日(木)に益田翔陽高校生物環境工学科の2年生18名が林業学習で津和野町内の林業専用道の開設現場と伐採現場を見学しました。

最初に訪れた津和野町左鏡の林業専用道「島直地奥山線」の開設現場では、施工業者の方から工事個所の概要を伺った後、現場で使用されているいくつかのICT機器の説明に関心をもって聞いていました。

午後からは同町溪村の伐採現場に移動し、伐採業者が得意とする架線集材の方法や仕組みについて説明を受けた後、現場作業員の方から指導を受けながら、チェーンソーによる玉切りなど林業の現場作業を体験しました。8月に農林大学校(飯南町)でチェーンソーや林業機械の操作を体験している生徒たちは、スムーズに機械操作を行っていました。

高校2年生にもなると、将来について身近なこととして考えている様子がかがえ、この生徒たちの中からも将来「林業」に関わる仕事に就いてみようと思ってくれる方が出てくれることに期待したいです。



施工業者によるICT機器の説明



林業機械の操作体験

①吉賀町で開催された「きん祭みん祭農業文化祭」に鳥獣ブースを出展しました！

ジビエの普及活動や鳥獣への関心を深めてもらうことを目的として、石西地域農林振興協議会では、令和7年11月16日（日）に吉賀町柿木で開催された「きん祭みん祭農業文化祭」に鳥獣ブースを出展しました。ブースでは、ジビエの試食やアンケート、狩猟をイメージした射的、はく製や罟の展示などを企画しました。

ジビエの試食では、猪のジャーキーを提供し、多くの方にジビエを味わってもらい「美味しかった」という感想を多数いただきました。約120名の方にはアンケートにもご協力いただきました。

射的は特に小学生に大変好評でした。模擬銃に興味を持ち、楽しそうに触ったりする姿が見られました。

また、動物のはく製や罟の展示にも多くの方々が関心を示し、普段見ることのない珍しいものに触れてもらいました。

今回の活動を通じて、来場者の方にジビエや鳥獣に関心を深めてもらうことができました。今後も多くの方に鳥獣やジビエに対する関心を持ってもらう活動を行っていききたいと思います。



ブースの様子



射的の様子

②林内通信機器「Soko-co」の実演会を開催しました！

林業の現場は、山間部で従事することから携帯電話の不感地帯が発生しやすいことから、お互いの連絡方法がなかったり、万が一事故が発生した場合に負傷者の位置把握に時間がかかるケースも想定されるなど、労働安全上の懸念があります。

そういった様々なケースを解消し、現場作業の安全確保や作業効率の一助とするため、令和7年11月19日（水）、高津川流域林業活性化センターと島根県公社造林推進協議会の主催で、林内通信機器「Soko-co」の実演会を開催、管内の市町や森林組合等事業体から計20名が参加しました。

この「Soko-co」は、業務用無線機とアプリをインストールしたスマートフォンを使用した通信システムで、アプリにあらかじめ現場の地図を取り込むことによりオフラインでの使用が可能で、その地図上に業務用無線機の位置が表示されるとともに、事故が発生して動けない状態になった時は、他の無線機やアプリに緊急通信を発信する仕組みを備えています。

研修はこの現場で作業を行っている株式会社美都森林の従業員4名の方に入山していただき通信状況を確認しました。

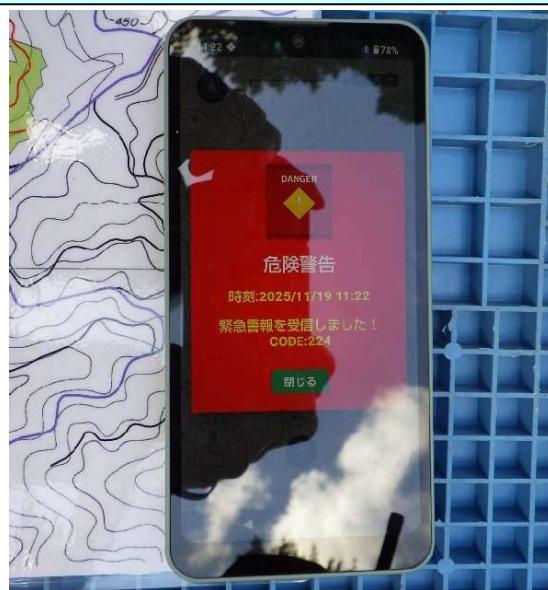
会場は10ha強の現場で、無線機で連絡を取りつつ四方に散らばって移動してもらいましたが、基地とした研修メイン会場と移動担当の4名の方々の無線機による通信は良好で、アプリ上の表示も途切れず、尾根や谷を隔てても問題なく通信できました。

また、緊急時の通報も問題なく受信でき、10haほどの現場であれば「Soko-co」が想定しているシステムが問題なく稼働することを参加者全員で確認することができました。

今後、このような林内通信システムの導入により、現場作業をされる方の作業効率の向上や安全の確保が図られることを期待します。



移動中の4名と基地の通信の様子



スマホ側への緊急通報の様子

① 安田小学校でクマ学習会を行いました！

12月2日(火)に安田小学校にてクマ学習会を行いました。4年生12名と教員1名の計13名に参加してもらいました。安田小学校付近は今年度、頻繁にクマの目撃情報が報告されており、登下校中にクマに遭遇する可能性もあることから、学習会ではクマの生態や、クマに出会わないための予防策、さらに万が一クマに遭遇した場合の適切な対応方法について学んでもらいました。

益田市はクマの出没が多く、子供たちにもクマに関する知識がある程度浸透していると感じました。実際に、児童たちはクマについての基本的な知識をすでに持っているようでしたが、学習会の中で新たに知ってもらうこと事柄も多かったように感じました。また、万が一クマに出会ってしまったとき身を守るための防御姿勢についても体験してもらうことができました。特に、クマに遭遇したときの冷静な対応や予防策については、普段から意識しておくことが大切だと感じてもらえたと思います。



学習会の様子



防御姿勢をとる生徒たち

② 林業講演会を開催しました！

12月11日(木)、NPO法人活木活木森ネットワークの遠藤日雄理事長をお招きし、「地方の林業・木材産業の今後の在り方とは？～需要縮小時代へ対応するために何が必要か～」と題した講演会を、島根浜田ワシントンホテルプラザで開催しました。

遠藤理事長は、NPO法人理事長としてだけでなく、国内の様々な林業関係団体の理事や委員も務めるなど、多方面でご活躍され業界屈指の見識をお持ちの方であることから、業界の方々の関心も高く、県西部の林業・木材産業の関係団体等を中心に約70名が参加しました。

講演会では、住宅市場の縮小が避けられない中、国内需要(内需)と海外輸出(外需)の両方を見据えた戦略が必須であること、段階的に準備を進め非住宅市場への参入を視野に入れること、原木調達～生産～物流～流通販売の全過程で情報共有・連携・全体最適化を実現するためのサプライチェーンマネジメントの構築が必要であることなど、全国各地の事例を交えながら話されました。講演後は、参加者から様々な観点からの質問があり、遠藤理事長と積極的に意見交換を行い、理解を深めていました。



講演会の様子



遠藤 日雄 理事長

① 邑南町シカ被害現地視察研修会を開催しました！

R8年3月2日（月）、石西地域農林振興協議会、高津川流域林業活性化センターの共催で、シカ対策の先進地である邑南町にてシカ被害現地視察研修会を開催しました。益田管内から16名が参加し、現地では出羽公民館での講義から始まり、実際にシカにより加害された植栽現場や、ワンウェイゲート式の囲い罫、コルゲート管を用いた屠体の減容化処理施設を見て回りました。

参加者からは、被害の最前線を視察したことで、「今後、益田でもシカが増えてきた時に向けて危機感を持つことが出来た」「コルゲート管での処理施設を実際に見てみることでイメージを具体的に持てた」といった感想がありました。

島根県では近年、県央を中心にシカの捕獲頭数が増加しつつあり、益田管内でもシカによる農林業への被害の増加が懸念されています。今回の現地研修では、県内のシカ対策の最前線での取り組みを学ぶことが出来ました。今後もシカ被害を防ぎながら、持続的に林業を行っていくための対策を積極的に学んでいきたいと思っております。



植栽木シカ被害地の視察



減容化処理施設の視察